

委員に提出すればよいことになってい
るが、この一枚を書くのに予想以上
に時間がかかってしまった。一年生
からの思い出を書いた。四つの作
文は、十月中に実行を
した。四月からは豊岡高校の生徒
として、新しい友達に出会えるこ
とが楽しみだ。・・・
れたような快晴。両親も来てくれ
た。しばらく卒業した。私たちの
明るい気持ちを表して。私に向原
中学校を
二〇二七年三月十五日。私は向
原中学校を
二〇二四年九月二十五日

学校が休みになり、二年生の五月までは、	立つことがあるかもしれない	とは二度とないかもしれない。	「毎日、日記を書き始めるとよい。こんなこ	になっとき、担任と父が同じことを言った。	い出せた。新型コロナによって、学校が休み	その日記をなぜ書き始めたのか、すぐに思	いことではなかった。日記があったのだ。	その日に何があったのか。調べるのは難し	机に向かうことが楽しみになった。	ことだ。シンジョーは生まれて初めて、家で	うためではない。自分でやってみたくなった	の自分を書くこと。これは誰かにほめてもら	た。	「未来の自分」を書く前に、同じ日の過去	てみようかと決めた自分を、誇らしく思えてき	シンジョーは、自分で課題を見つけてやっ	ば、担任も似たようなことをよく言っていた。	となんて、これまでにはなかった。そういえ	ことを思い出した。校長の話を書き出したこ	です。と、講話朝会で校長が何度か話した	質問をする子、それが扇小学校の「考える子	宿題がなくても自分で勉強する子、授業で	新しい課題を自分で作ってしまった。
---------------------	---------------	----------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	---------------------	---------------------	------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----	---------------------	-----------------------	---------------------	-----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	----------------------	---------------------	-------------------

今日も学校は休み。一日、家で、一人で勉強	二〇二〇年三月十五日	次のように、文集用の作文を書き始めた。	シンジヨ―は、自分が書いた日記を見て、	い	はやくがっこうにいったべんきようした	ました。	おかあさんが、おひるにでんわをしてくれ	プリントは、すぐに、おわりました。	きょうもあさからしゆくだいをしました。	いてある。	ら十五日目である。日記にはこんなことが書	二〇二〇年三月十五日。日記を書き始めてか	小学校一年生の時の三月十五日。令和二年。	日記を書いてい	なことがあって、シンジヨ―は今日まで毎日	母も、同じようなことを言っていた。そん	「せっかくだから続けるといいよ」	を見せると、とっても喜んでくれた。	始まり、持ち上がった。喜んでくれた担任にその日記	毎日、日記を書き続けた。六月に分散登校が
----------------------	------------	---------------------	---------------------	---	--------------------	------	---------------------	-------------------	---------------------	-------	----------------------	----------------------	----------------------	---------	----------------------	---------------------	------------------	-------------------	--------------------------	----------------------

ジ ョ ー は 、 明 日 実 行 委 員 に こ れ を 渡 す た め に	二 〇 二 七 年 の 未 来 の 自 分 を 書 き 終 え た シ ン	で い て く れ る 、 そ う 思 い た か っ た 。	信 じ た く な か っ た 。 扇 小 学 校 だ け は 休 ま な い	前 の 日 に 母 か ら そ う な る こ と を 聞 い て い た が、	の 放 送 に よ る 話 は 、 み ん な を が っ か り さ せ た。	「 明 日 か ら 臨 時 休 校 と な り ま す 。」	二 月 の 終 わ り 。 朝 の 会 で 校 長 先 生 の	よ く 家 で も 歌 っ て い た 。	大 好 き な 大 好 き な こ の 学 校 で	校 が 、 扇 小 学 校 が 大 好 き だ っ た 。	楽 し か っ た 。 友 達 も 先 生 も 大 好 き だ っ た 。 学	一 年 生 の 時 は 、 毎 日 学 校 に 行 く の が 心 か ら	シ ン ジ ョ ー は 自 分 で 納 得 し た 。	で も な い の で 、 こ れ く ら い は 許 し て も ら お う。	占 め て い た よ う に も 思 う 。 文 集 に 載 せ る わ け	ゲ ー ム と Y o u T u b e は 、 か な り の 時 間 を	去 の 自 分 へ の 期 待 を 込 め た 表 現 だ 。 本 当 は 、	「 我 慢 し た 」 と い う の は 、 シ ン ジ ョ ー の 過	っ て い る 。 「 早 く 学 校 に 行 き た い 」 。	め た 約 束 を 守 っ て 我 慢 し た 。 毎 日 の よ う に 思	話 を し て く れ る 。 テ レ ビ や ゲ ー ム も 、 父 と 決	強 を し て い た 。 母 が 心 配 し て 、 仕 事 場 か ら 電
--	---	--	--	---	---	--	--	---	---	---	--	---	--	---	--	--	--	---	---	--	--	--

